

第4回銚子の歴史講演会 ～「上代文化第22輯」復刻刊行記念～

# 粟島台遺跡について

——1949・1990年の粟島台発掘調査より

- ▶日時 2月26日(土) 14時開場 開演 14時30分～  
16時頃
- ▶会場 銚子市コミュニティセンター2階ホール (市役所隣接)
- ▶講師 田杭博氏 (一般社団法人 日本考古学協会 会員)

●入場無料 ※新型コロナの感染対策は行政指導に従って行います。  
感染状況によって中止することもご了解ください。

粟島台遺跡は、銚子市南小川町、西小川町、粟島町にある縄文時代前期(約6,000年前)から後期初頭(約4,000年前)にわたる遺跡として知られています。

本遺跡は、1934(昭和9)年に吉田文俊氏により発掘されて以来、1940(昭和15)年東京大学人類学教室、1949～50(昭和24～25)年の國學院大学大場磐雄博士による総合的な学術調査が行われました。さらに、1973・1975(昭和48・50)年の発掘では、低湿地地点から漆塗りの縄文土器、漆塗りの椰子実製の容器、木製の櫂、動・植物の遺存体等が多数出土しました。そして特筆すべき点は、銚子産の琥珀原石を加工した玉の未成品や剥片、碎片などが出土し、縄文時代中期の琥珀玉の生産遺跡として注目されています。

1949～50(昭和24～25)年の発掘調査報告書は粟島台遺跡を知る上で、きわめて重要な資料ですが、千葉県内の図書館でこの現本を所蔵している公共図書館は無く、まさに稀覯本となっていました。そこで本会では、2020年11月に粟島台遺跡の石碑建立に参加し、発掘調査報告書『上代文化』第22輯の復刻版を2021年2月に刊行いたしました。

粟島台遺跡は、台地上約48,000㎡、低湿地で約65,000㎡とかなり広大な遺跡で、その90%以上が未発掘地点です。

莫大な石器、土器そして、各種玉類等の出土量をみても粟島台遺跡は、正に全国的に特筆される縄文時代前期・中期・後期初頭の遺跡と言えます。



▶主催 マンガ銚子の歴史刊行会 お問い合わせ: ☎0479 (25) 5634 高木



粟島台遺跡出土  
琥珀製大珠